



NO.8 03.10.1

一時節を信じて……

今回は、鶴見教会の桜井君江先生にお話を伺いました。君江先生は、昭和十六年広島にお生まれになり、小さい頃から両親とお寺にお話を聞きにいかれたそうです。昭和三十九年に現教会長桜井信一先生とご結婚。二男一女を授けられ、平成八年に教師拜命されました。

☆信一先生と結婚された頃の事を教えてください。

先生とはお見合いで、金光教の名前すら知りませんでした。両親が熱心な仏教徒であり、学校はカトリック系でしたので、宗教そのものに違和感を持ちませんでした。

そして教会長（信一先生）の優しく暖かい人柄に惹かれました。

☆結婚後のお話を聞かせて下さい。

まず、新婚旅行から帰ってきてすぐ、初代教会長夫人が脳溢血で倒れられた為、

奥の事は手続きの先生や古い信徒の方々が、本当の親のようによく教えて下さいました。

初めの数年、金光教そのものに、また教会ということに随分抵抗し、逃げるこ

とばかり考えていましたが、そんな私の目を金光教に向けさせたのは、教会長との間にある事が起きた時、ご自



川でスベって山でコロんで……とってきました

interview

第6回 桜井君江先生（鶴見教会）

分が苦境に陥ることは全然考えず、即座に「あなたがそれで助かるのなら」と言われた一言です。

こういう時に相手の立ち行きだけを願えるということ、初代（浅次郎先生）の元でこういう人が育てられた、この宗教は素晴らしいと思ったのです。

それと、神奈川先代教会長先生や鶴見

の信徒総代の方々が、海のものとも山のものともわからない私を、とても引き立てて下さったことが本当に有難く、その願いにしっかりと答えられるようにならなければ、と強く感じました。

今、初代先生がおっしゃっていた「一時節」ということを思います。ここ数年、二、三の方と典楽の稽古をさせて頂いてますが、神様は私の楽技の進歩に合わせて相手を差し向けて下さっています。「神は氏子が育つまで待つ」と言われますが、まさにその通りのことを私の身の上に現して下さっています。このことから、今も先々の心配なことが色々ありますが、神様が一番よい時節を下さると信じていくことが出来ます。

自分本位な生き方をしてきた私を、よく辛抱しておいて下さったことに、また父（源吾先生）には立派な教会を造って頂き、現神奈川教会長先生始め鶴見の信徒の方々に可愛がって頂き感謝しています。

この歳になって、教会長や、初代からずっと育てられた信徒の方から、「許すことが出来る」ということを学びました。許すことが出来ないことでも、相手が「立ち行くよう許すことが出来る」という、教祖の言われる「腹を立てるな、こ

第5回 講話と夕食の会 『どうする…子育て』

—家庭で、学校で、地域で—

8.30. SAT 13.30~17

去る8月30日(土)、鶴見教会において、今回で5回目を迎える信徒部主催の『講話と夕食の会』が、鎌倉教会の吉岡裕子さん(よしおか ひろこ)を講師にお迎えして開かれました。

吉岡さんは、小学校教師を38年間続けられた中で、「こうしたらどうか、ああしたらどうか、と取り組んだ日々の積み重ね」をいくつかの実例を交えながらお話してくださいました。



↑ 講演中の吉岡さんです。



↑ 皆さん、何年かぶりに小学生気分になってる…のでしょうか…?

といったお話から、「どのようにしたら感性豊かな子供に育つか」とお話してくださいました。

講師のお話を聴いて、講師のような思いで子供達に接してくれる先生が増えてくれればイイなあと思いました。

— 恵 —

★ありがとうございます。
— 則 —
「立てられんことがあつても、それでも腹を立ててはならん」に通じる素晴らしい生き方を教えて頂きました。これが私には一番苦手な事で、その為にこれまで多くの失敗を重ねて来ました。この事が私のこれからの取り組みべき事と思っております。

木はこう描く…と教えるとそれ以外の描き方が出来ない。教えることで、それ以上のものが出なくなるという、子育ての難しさがある。

小学校2年の国語の題材で、鮭の一生を扱ったものがあり、それを讀んだ子供達に、気付いたことや不思議に思ったことを発表させたところ、「鮭はどうして生まれた川が分かるんだろう?」という話になった。子供達は、「景色を覚えているんじゃない?」「温度を見て戻ってくるんだ」「景色が変わっていたらどうするの?」などと話が広がっていった。が、そこに一人の物知りで知られた子が「臭いで戻ってくる」と言ったことで話が急に止まってしまった。子供達の考える姿勢が止まってしまった。

今、教えられる知識は増えているが、獲得する知識は減っていることを思う。以前なら友達付き合いや、自然との触れ合いで、自然に身に付いていったものが、それらとの関わりが希薄になるにつれて、獲得するものがなくなってきている。

学校は、数字を計算する、文字を書く、友達と共に取り組む、逆にぶつかり合うなど、様々なこととの関わりを通して、自身で感性を伸ばし、自然に育つキッカケを作ってやる場所である。教師だけでなく、いろいろな子供がいるその特性を活かし、子供達が影響し合い、生み出していく授業を心掛けていた。



ハワイの暮らし&日本の暮らし

番外編 ~ キカイダーはハワイのヒーロー

この夏、夫が入選した「JAL世界の旅エッセイコンテスト」の副賞のおかげで、2年5ヶ月ぶりに親子4人でハワイを訪れる機会を得た。

子供達との約束で、ハワイに住んでいる時に大好きだった「パワーレンジャー」というテレビ番組のビデオを買いに行った。その番組は、日本で幼児に人気の「戦隊シリーズ」(古くは「ゴレンジャー」、最新は「アバレンジャー」)のアメリカ版である。日本の番組の中の特撮部分のみを利用して作り直したものである。そのドラマを見て感心したことは、主役5人のうち2人は女性であり、しかも、アメリカらしく白人、黒人、黄色人種と、人種のバランスも配慮されていることであった。

さて、あるビデオショップで「パワーレンジャー」のビデオを探している時に、ある物が目に飛びこんできて、思わず「おおーっ」と声をあげそうになった。それは「人造人間キカイダー(石ノ森章太郎原作)」のポスターであった。日本のアニメやヒーロー物は他にもたくさんあるが、その中でもキカイダーは別格扱いで、特別コーナーが設けられており、棚の上には人形も並んでいた。続編の「キカイダー01」まで豊富に取りそろえられているではないか。キカイダーがハワイで流行しているという噂は聞いていたが、ここまでとは思っていなかった。その人気は、パワーレンジャーどころではなかった。滞在中、他の店でも同じような充実した「キカイダー・コーナー」を目にした。

先日、日本の新聞で「キカイダーはハワイの英雄」というタイトル記事を見つけた。キカイダーがハワイではじめて放送されたのは1974年で、2001年11月に再放送した時に、74年当時子どもだった世代からブレイクし、彼らの子供達にまでブームが広がったそうだ。記事にはなんと、州知事が「キカイダーの日」を制定したと書いてあった。そのブームのすごさに驚かされる。新聞では、キカイダーは単なる懐かしさを越え、強大なアメリカ文化に対抗するハワイ文化の一つの象徴となってきている、と書かれていた。8頭身のアメリカ版ヒーローよりも、日本で作られた5頭身のヒーローが愛されているというのは、ちょっとうれしい気持ちがする。

また、教会にお参りした時、日系2世3世のおばさんの信者さん達が、おしゃべりで盛り上がっていた。話題は、その日放送される人気ドラマの結末がどうなるかについてだった。そのドラマは韓国のメロドラマらしいのだが、複雑な人間模様の中で、人と人との絆、夫婦や家族の絆を考えさせる内容だそうだ。一人の信者さんが、「韓国のドラマはいいねー。人を思う気持ちとか、純粋さとか、温かさとか、韓国のドラマだけど、昔の日本の心のように。韓国のドラマには日本人が替っていた心が残ってるねえ」と話してくれた。そういえば、日本でも衛星放送で大ヒットした「冬のソナタ」という韓国ドラマの感想にも、同じようなものがあつたように思う。

急激に変化している世の中であつて、古いものや古いと感じる物が好まれたり、憧れられるということは、キカイダーや韓国ドラマにもあるように、ただ懐かしさにひたるだけではないものがあるようだ。人々は、大事なもの、失ってはならないものを、直感的にでも感じているのである。

— 浩 —

生神金光大神大祭日程

教会名	日 程	時 間	教会名	日 程	時 間
津久井	10月18日(土)	午後1時30分	相模原	11月3日(祝)	午後2時
横浜西	10月19日(日)	午後1時30分	武蔵小杉	11月9日(日)	午前11時
甲 府	10月19日(日)	午後1時30分	鶴 見	11月11日(火)	午後1時
南甲府	10月20日(月)	午後1時30分	大 磯	11月14日(金)	午後1時
鎌 倉	10月26日(日)	午後1時30分	野 毛	11月15日(土)	午後1時30分
登 戸	10月26日(日)	午後1時	川 崎	11月18日(火)	午後1時
大 明	10月28日(火)	午後1時30分	平 塚	11月19日(水)	午後1時
子 安	11月2日(日)	午後1時30分	神奈川	11月22日(土)	午後1時30分
横須賀	11月3日(祝)	午後1時30分	小田原	11月23日(日)	午後2時
生 友	11月3日(祝)	午後1時	藤 沢	11月28日(金)	午後1時30分
丸 子	11月3日(祝)	午後1時			

— 東京センターよりお知らせ —

☆公開講座 こころセミナー

現代社会の危機と宗教

～金光大神出現の意味について～

講師：荒木美智雄氏（筑波大学名誉教授）

会場：金光教東京センタービル3階

日時：第3回 10月4日(土)

第4回 11月8日(土)

*時間はいずれも14時～16時です。

参加費：300円

お問い合わせは金光教東京センター

03-3818-6321まで

— 連合会よりお知らせ —

☆ 第6回 講話と夕食の会

「新しい
『金光大神』をいただく」

講師：和泉正一師（金光教東京センター所長）

会場：鶴見教会

日時：11月29日(土)

講話—15:00～17:00

夕食会—17:00～18:30

(夕食会の参加費：1500円)

お問い合わせは吉田章一郎

045-583-7400まで

やまがみ通信

〈お・が・ね〉

わが心を神と祭る

平塚教会 奥川達雄

明治九年の秋、「旧暦と新暦と両方あるが、さきで、どちらも、九日・十日つれのうてゆくときがあるぞえ。そのときに神あがりするぞえ」と、金光大神は伍賀慶春という人に言い聞かせている。

教祖さまは、年に一度の祭り日として、十月十日を金光大神永生の祭り日とし、生きながらにしてわが心を神と祭っておられた。

明治十六年十月九日は旧暦九月九日にあたり、正に予言のその時が来たのである。翌十月十日の朝、安芸守山に朝日の影が映えそめたころ、心安らかに神上がりせられたのである。

金光大神の神靈永遠に消えず、永生不滅の御取次を下されているのである。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 南 清孝

編集責任者 横山光雄

川崎市多摩区生田五・二四・九

金光教登戸教会内